

私のモチーフ

「紫陽花をめぐる」

会員 北島 裕子



第72回示現会展 水無月 北島 裕子

六月の鎌倉は、寺々に紫陽花が咲いて美しい。白やブルー、紅色など、彩豊かで心が和む。

鎌倉の花を愛で、相模の海風をあび、気楽なスケッチ散歩を楽しんだ。

散歩のスタートは

「北鎌倉の駅近く「明月院」から山門までの石段左右に紫陽花がかぶさる

ように重なって咲く。

白い空をうめ、天をつく花は青色だけで珍しく「明月院ブルー」と呼ばれている。

はじめて、雑誌を見て感動した。そして、寺に行き、その優雅さに心を打たれた。以来、二十数年になるだろうか。

季節には毎年行くようになってきた。

そして一〇〇号Fで、油絵を描き、示現会展に出展している。

「明月院」から歩いて一〇分くらいに「東慶寺」がある。

鎌倉時代に作られた由緒ある尼寺である。



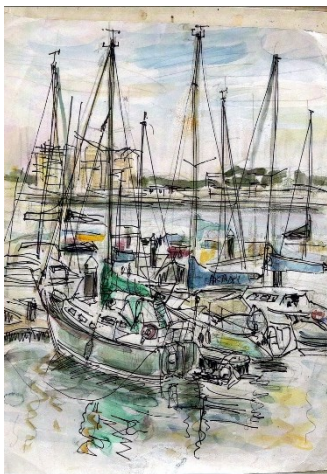
第64回示現会展 (2011) 歳生 100 F 北島裕子

男尊女卑の封建時代は、結婚をした女性から離婚を申し出る事が出来なかった。

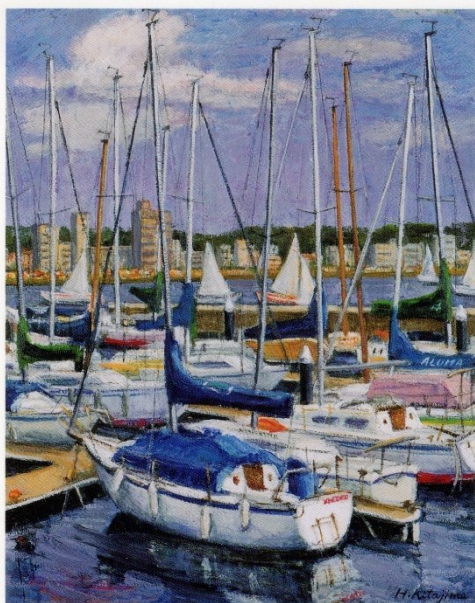
そこでこの寺に駆け込めば、許されたことから、別名「駆け込み寺」と呼ばれている。当時、墨筆で書かれた「三下り半」など、この寺で見ることが出来る。この寺から「鎌倉駅」まで一駅歩く。

駅から、「江ノ電」に乗る。

「極楽寺」で降りる。石段を上がった寺の門前から、由比浜に向かって咲きほこる紫陽花をスケッチする。



「長谷寺」まで江ノ電で行く。紫陽花の咲く参道を登り、足場の良い場所を見つけたら三浦半島方向を描く。海に四、五艘のヨットが遊び、楽しげだ。
 ここから橋をわたり 江の島の「ヨットハーバー」に行く。
 東京オリンピックの会場になった場所だが、出入り口は、かなり自由である。外から見えるヨットの近くまで行く。
 描きたい場所に、イーゼルを立てて描く。青空の下、ピカソのハトのような雲の下油絵を描くことも出来る。
 朝から夕方、または午前か、午後の半日も楽しめる。
 食事はここを管理するレストランがあり、カレーライスなどを食べられる。



第53回示現会展(2000) 夏 北島裕子

スケッチをしていると、絵を見に來たり話しかけたりする人がいる。
 マイペースでヨットを現場で仕上げるのは楽しいものである。
 そろそろ日が暮れはじめ、帰り支度をする。駅に急げば、真つ赤な夕焼けにつつまれる。富士山は、青黒く、そびえ立つ。土産の干物などを買い、新宿行きの急行に乗る。

昔はよくスケッチ旅行に行きました！



イタリアベニス、サンマルコ広場で夕焼けをスケッチ

五浦の海を描く

